

第7・8回
(2010.11.30,12.06)

目録情報とその利用法

川崎良孝教授 (教育学研究科)

第7回：講義

場 所：吉田南総合館 共東41

出席者：26名

配布資料：川崎先生の講義資料(A3プリント2枚)+資料1(A4ホチキス止め1部)

前半 (10:30～11:30) 川崎先生による講義 ～図書の本の並び方・探し方(目録)の歴史～

Fixed Location 本のある場所は固定されており動かない	18世紀	①大きさ→②受入順で並べる(配架) = 同じ主題の本がバラバラに置かれる 探す手立ては冊子目録：大きさごとに著者名順 あるいは 著者名順 = 著者が分からないと探せない 本のある場所は“書架番号—大きさ・棚番号—並び順”で表現
	～1860's	⇒主題で並べる方が便利！ ①主題→②大きさ→③受入順に配架 / 目録は主題ごとに著者名順 あるいは 著者名順 本のある場所は、“主題—書架番号—大きさ・棚番号—並び順”で表現
Movable Location (Relative Location) 本のある場所は固定されず移動可能	1858	ボストン市立図書館新館 開館：①主題→②大きさ→③受入順で配架 “ decimal system ”：1つのアルコーブ(alcove)の中に、10段の書架が10架 → それぞれに十進数の数字を付与して本の在処を表現 / 目録は基本的に著者名順 (参考) ウォルター・ホワイトヒル、ボストン市立図書館100年史、栄光、挫折、再生、川崎良孝訳、日本図書館協会、2001、p.73-74、350-353 川崎良孝解説・訳、ボストン市立図書館よいかにして生まれたか、京都大学図書館情報学研究会、1999、p.87-88、123-136
	問題点	ある大きさ・ある学問分野の本が急増すると、既存の書架では対応しきれない！
本のある場所は固定されず移動可能 主題ごとにまとめて配架	1876	メルヴィル・デュイ(Melvil Dewey, 1851-1931)のDC(Decimal Classification)=十進分類法 ⇒ 普及・定着 書架ではなく資料を主題で分類し、配架 / 冊子目録から カード目録 へ、☞ コンセプトの大きな変化! 背景：ゼミ・実験などが導入されたことで、大学図書館では特定分野の調査が必要に 公共図書館では蔵書冊数が増加、図書館員の頭の中の主題目録では対応しきれず 思想と、それを受け入れる社会環境が噛み合った時に、新しい制度ができる!
	20世紀	SD (Subject Departmentalization) = 主題別部門制 / 主題別閲覧室制度 主題別に部門が分けられ、それぞれの部屋・書庫に、専門職員、蔵書、目録を配する → 「図書館全体としてどんな本があるか？」を示す全館目録 = 総合目録 (Union Catalog) が登場
	1960's頃～	分類・目録作業の集中化 ：中央館が分館の目録もまとめて作成 (例)名古屋市図書館

* 京都大学の目録 *

～ 1990 各学部図書館で目録作成・附属図書館に総合目録(附属図書館に目録室があった)

1990～ 各図書館でオンライン目録を作成、各図書館内からコンピューターで検索できるシステムに

1998～ OPACがWebフロント化、図書館外からも検索可能に!

★情報へのアクセス方法が多様化し、情報探索スキルの有無で、研究以前に差がついてしまうように!

=情報探索を学ぶ意義

→ この頃「情報探索入門」がスタート

後半 (11:30～12:00) 図書館員の講義 (担当：長坂)

次週の演習に向けて、目録検索の基礎的な解説を行った。説明に際してはPowerPoint及び資料1を使用したほか、KULINE、Webcat Plus等のオンライン目録の検索を実演。最後に川崎先生より補足説明を頂いた。内容は以下の通り。

1. 参考文献の役割と見方、注意点

2. 雑誌と図書の見分け方 ☞ 特に重要!!

3. KULINEでの、図書・電子ブック(Electronic Book)の探し方と見方

4. KULINEでの、雑誌・電子ジャーナル(Electronic Journal)の探し方と見方 (**前方一致・完全一致検索**も解説・実演)

5. 学外のオンライン目録の検索実演・紹介

Nacsis Webcat 検索 (KULINEの「他大学を検索」) / Webcat Plus 検索 / NDL-OPAC で博士論文を検索

京都府図書館総合目録ネットワーク / カーリル / NDL サーチ / WorldCat.org / Amazon.com / AbeBooks.com

川崎先生からの補足説明

① 図書と雑誌を見分けることや、前方一致検索といった検索法の重要性について ② ISBN (本の識別番号)のご説明

③ 1つ1つの資料は重みがあるものなのに、オンライン目録上では全て平坦になってしまう。機械には限界がある。

(担当：梶谷春佳)

第8回：演習

場所：学術情報メディアセンター南館 203,204 出席者：36名

配布資料

- ・資料2 (A4 ホチキス止め1部)
- ・基本問題解答方法 (A4 プリント1枚)
- ・演習問題 (A4 プリント1枚)

前半 (10:30-11:00) 図書館職員による例題解説 (担当：塩野)

演習における解答の方法を、資料2の例題をもとに説明した。

例題解説は音声と画面の同時中継で行い、203号室で解説者が解説し、204号室にその音声・映像が流れるようにした。

演習では平成21年度の演習でKULINEのサーバがダウンしたことを受けて、アクセスの集中を避けるため、203号室はsys2サーバ、204号室はsysサーバのURLを指示。また、教室内を2つに分けて、それぞれ1番、7番から始めるように指示した。

後半 (11:30-12:00) 演習 基本問題10問

◆課題内容

各図書、雑誌をKULINEやNII、その他の図書館のOPACで検索し、所蔵館(配置場所)、請求記号や電子ブック・電子ジャーナルの有無を書かせる問題を10問出題した。1番から6番の問題ではKULINEでの完全一致検索、前方一致検索のやり方を解説、実践してもらった。また、KULINEではヒットせず、NACSIS-Webcatではヒットするもの、情報源の一部が誤っているものなどさまざまなバリエーションのある問題となっている。

7番以降は、京大以外のOPACも使いこなせるよう、他機関のOPAC等で検索を行ってもらった。

1-6: KULINE 検索、NACSIS-Webcat 検索

7: Webcat-plus で連想検索。その結果を京都府総合目録ネットワーク検索

8: 国立国会図書館 OPAC (博士論文) 検索

9: WorldCat 検索

10: amazon.com・Abebooks.com で検索し、価格比較

演習 発展問題

目録の授業が参考の後に来たことを受けて、より実践的な能力を学生に身に付けてもらうため、自らの興味のあるテーマを選ばせ、それに関連した図書を探させた。

提出期限は翌週の正午。提出先は ensyu@kulib.kyoto-u.ac.jp とした。

(担当：長坂和茂)